

研究プロジェクト成果報告書（一般研究・特別研究）

研究課題 「幼稚園における子育て支援に関する研究

—「親と子が共に育つ」取組を目指して—

研究期間 平成30年度～平成31年度（令和元年度）

研究代表者	上越教育大学附属幼稚園	園長	安藤 知子
	同	園長	杉浦 英樹（平成30年度在籍）
研究組織	同	副園長	泉 真理
	同	教諭	渡邊 典子（平成30年度在籍）
	同	教諭	大坪 千恵子
	同	教諭	黒田 隆夫
	同	教諭	長谷川 裕美
	同	養護教諭	加藤 喜美江（平成30年度在籍）
	同	養護教諭	高瀬 育子
	上越教育大学	准教授	白神 敬介

■ 研究の概要

1 研究テーマについて

現在、少子化、核家族化、都市化、情報化といった社会の変化に伴い、子育てについての価値観や生活様式が多様化し、その結果、地域社会や人間関係の希薄化等を生み出し、家庭や地域における子育て環境が変化してきている。そのような中で、幼稚園に対する地域の実情や保護者の要請等を踏まえ、子育て支援のために幼稚園の機能や施設を開放し、地域における幼児期の教育センターとしての役割を果たすことが求められている。

子育て支援は、往来から地域の実情に応じて個々の幼稚園で行われてきたが、制度的には、平成12年施行の幼稚園教育要領に幼稚園の運営にあたって努力規定として示され、平成13年の幼児教育振興プログラム(文部科学大臣決定)において子育て支援活動の推進が強調された。また、今年度から施行の新しい幼稚園教育要領では、第3の2に「幼稚園の運営に当たっては、子育ての支援のために保護者や地域の人々に機能や施設を開放して、園内体制の整備や関係機関との連携及び協力に配慮しつつ、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、幼児と保護者との登園を受け入れたり、保護者同士の交流の機会を提供したりするなど、幼稚園と家庭が一体となって幼児と関わる取組を進め、地域における幼児期の教育センターとしての役割を果たすよう努めるものとする」とあり、今後より一層の充実が求められている。

子育て支援には様々な役割が期待されているが、「親と子が共に育つ」という観点から活動を実施し、保護者の子育てに対する意欲を引き出し、その教育力を向上させるようにすることが大切である。つまり、保護者の子育てに対するストレスや不安を解消し、喜びや生きがいを見出すことができるよう支援する必要がある。そして、子育て支援活動を通じて、保護者が安定した気持ちで幼児と関わり、幼児が保護者との温かなつながりに支えられ、幼稚園でより主体的に活動するようになっていくことで、家庭教育のみならず、幼稚園教育一層の充実に資するという側面もある。

本園においても、保護者と園が共催の子育てに関する講演会の開催や未就園児も含めた親子活動、週1回の園庭開放などを子育て支援活動として実施している。また、平成28年度から預かり保育を本格的に実施している。この預かり保育は全国の附属幼稚園の中では先進的な取組であり、その取組については全国的に注目されているところである。実施して4年経ち、保育や運営も軌道に乗りつつあるが、その一方で、園に対する保護者のニーズの変化や幼児が園に長時間滞在することによる影響、運営面での課題等が見え始め、より充実した預かり保育になるよう考えていかなければならない時期にきている。本園の教育課程は、平成25～27年度研究「遊び込む子ども」を土台として編成されており、近年の幼児教育において求められている非認知能力の育成に有効であることが示唆されている。預かり保育と正規の教育課程に基づく活動とのつながりを考慮することによって、教育効果の向上が期待できる。

そこで、本研究では、本園の子育て支援活動の在り方を探り、また、教育課程に基づく活動との関連を考慮した預かり保育計画を編成する。子育て支援の充実が幼稚園教育の一層の充実に資することを提案したい。また、研究の成果を広く発信することによって、幼稚園や保育園、こども園が預かり保育も含めた子育て支援活動を企画し実施する際の一助となることを期待する。

2 研究計画

研究対象は、3、4、5歳クラスの幼児と保護者、本園で実施している子育て支援活動に参加した未就園児の保護者とする。本園の子育て支援活動に関する保護者アンケート

トの作成や分析、預かり保育計画の修正や見直し等については、研究分担者と研究協力者の協同作業によって行う。

第1年次（平成30年度）

- ①本園で実施している子育て支援活動について、活動に参加した保護者や未就園児の保護者にアンケートを実施し、活動の有効性や改善点を検討する。
- ②現行の計画に沿って預かり保育の実践を進めながら、指導資料（預かり保育支援員が保育の振り返りを記載する日誌等）の蓄積を行い、計画の修正や見直しに反映させる。
- ③教育課程に基づく活動を担当する教諭と預かり保育支援員で、遊びや幼児の様子について定期的に情報交換を行い、それぞれの教育活動の関連を検討し、活動計画の修正や見直しを行う。
- ④本園の保護者に預かり保育に関するアンケートを実施し、その効果を検証し保育の改善につなげる。

第2年次（令和元年度）

- ①前年度に実施した子育て支援活動に関するアンケート調査の結果から、活動内容を検討し実施する。
- ②前年度に修正し見直した預かり保育計画に沿って実践を重ね、指導資料を再検討するとともに、新たな情報を付加する保護者アンケートを実施しながら、保育計画の有効性について検証していく。

3 研究の方法

(1) 子育て支援活動に関するアンケート調査

本園で実施している教育活動について、保護者に記述式のアンケートを依頼する。実施期間は、平成30年12月と令和元年12月の2回である。また、定期的に園開放を行い、未就園児、在園児の保護者から意見をいただく機会を設けた。さらに、幼小中合同の子育て支援活動である「ふぞくフォーラム」を行い、保護者向けの講演会やワークショップを行った。これについても、参加した保護者にアンケート調査を行い、広く意見を収集することにした。

(2) 預かり保育における活動の修正や見直し

平成30年度の預かり保育の実践について、記録の蓄積や情報交換を行い、より子育て支援としての教育効果が発揮できるよう、活動計画について修正や見直しを行う。

(3) 預かり保育に関するアンケート調査

平成30年と令和元年の2年に渡り、預かり保育を利用している保護者に対して預かり保育に関するアンケート調査を行う。そのデータについては、上越教育大学白神敬介准教授に分析を依頼し、子育て支援としての効果を検証することにした。

4 研究の成果と課題

第1年次は、園で行っている子育て支援活動を以下の4つに分けて実施し、改善の方向を探った。

- ①保護者が子育てに関して学ぶ場の提供
- ②保育への理解を深める活動
- ③教育相談
- ④預かり保育

①、②については、園と保護者の共催が多く、内容に関しては、園が提供したいものと保護者が求めているものをすり合わせながら検討し、多くの保護者から好評を得た。

平成 30 年度から本園の幼児教育研究会の講演会に保護者も参加できるよう、会場を変更し、NPO 法人マミーズネットに委託して園舎内に保育ルームを設置した。

③については、保護者のニーズや困り感が多様化し、大学等専門機関との連携が欠かせるようになってきている。園職員が専門機関と保護者をつなぐ役割を果たすことで、保護者の不安やストレスが軽減し前向きに幼児と関わる様子が見られた。

④については、年 2 回の保護者アンケートを実施し、本研究協力者である大学教員から分析してもらった。保育内容については一定の評価を得た。保護者が正規保育や預かり保育に期待することが明らかになり、保育計画の修正や見直しに反映させた。また、利用料や利用手続きについて改善した。

既存の活動を「子育て支援」の視点から整理することで、保護者の子育てに対する意欲を高めるという活動の目的を職員間で共有しながら、見直しや改善の方向を検討することができた。預かり保育に関するアンケートは、大学教員から分析してもらうことにより、改善の方向が明確になった。このことにより、保護者にとって利用しやすい預かり保育の改善につながった。

保護者アンケートの結果は、PTA 総会等で保護者に報告した。また、幼児の遊びの様子から、正規保育と預かり保育の関連性、保育者同士の情報交換の重要性が示唆される事例が集積された。それらの事例は、本園主催の幼児教育研究会（平成 30 年 10 月 10 日開催）や、平成 30 年度研究紀要「遊び込む子ども—教育課程の創造—」で報告した。

第 2 年次は、実施した子育て支援活動に関するアンケート調査の結果から、活動内容を精査し、変更を加えて行うことにした。①～③については、以下の日程で行った。

①保護者が子育てに関して学ぶ場の提供

10月 9日（水） 第 27 回幼児教育研究会（ハネルディスカッション）
11月 7日（木） 三附子どもの健康を育む会

②保育への理解を深める活動

4月10日（水） P T A 保護者会
4月14日（土） 春の園庭整備作業
7月 5日（金） 保育参観日
7月 8日（月） 保護者会（うみ）
7月 9日（火） 保護者会（やま）
7月11日（木） 保護者会（そら）
8月24日（土） 夏のにこにこ D A Y
9月 5日（木） 愛園デー
10月19日（土） 祖父母参観日
12月 3日（火） 保育参観日
1月16日（木） 保育参観日
2月14日（金） お楽しみ発表会

③教育相談

4月23日（火）～26日（金） 教育相談ウィーク
6月14日（金） 教育相談日
9月 5日（木） 教育相談日
9月13日（金） 教育相談日
10月23日（水） 教育相談日
11月 5日（火） 教育相談日
12月 3日（火）～ 5日（木） 個別懇談
1月16日（木） 教育相談日

2月 3日 (月)

教育相談日

※教育相談日については、保護者の要望を受けて随時行ってきた。

幼児教育研究会の講演会については、昨年度から始めた保護者参加型が好評だったことから、第2年次についても大学の講堂を会場での開催とした。さらに、「幼稚園だけでなく、保育園、こども園の立場の方々からもお話をいただき、今後の幼児教育の在り方について学びたい」という願いから、3園種それぞれの園長先生をお招きし、パネルディスカッションとして開催した。保護者からは、「いろいろな保育のとらえを聞くことができてよかった」「昔の保育、未来のことまでたくさん話が聞けてとても勉強になった」「もっとお話を聞きたかった」といった肯定的な評価を多くいただくことができた。

また、保育ルームの設置についても昨年同様、NPO 法人マミーズネットに依頼し、保護者が負担感なく参加できるようにした。利用は、平成30年度11名、令和元年度12名であり、利用した保護者は安心してパネルディスカッションを傾聴することができた。

(1) 子育て支援活動に関するアンケート調査の結果

改善した教育活動について保護者からアンケート調査を行った。集計結果は以下の通りである。

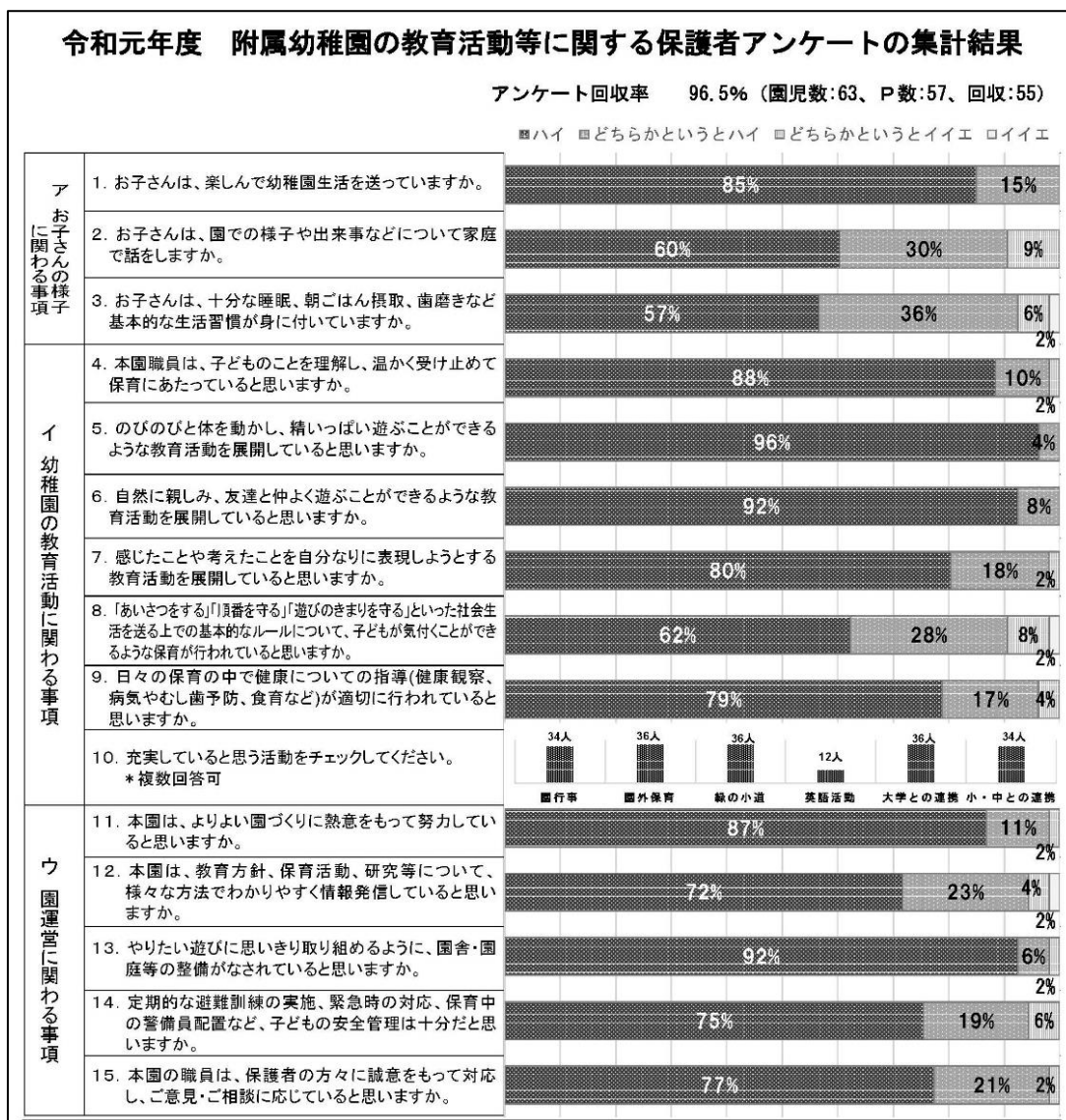


表1 附属幼稚園の教育活動に関する保護者アンケートの集計結果

どの項目も、A B 評価（ハイ、どちらかというハイ）を合わせると 90%を超える肯定的評価であった。特に①⑤⑥は、100%の肯定的評価である。これらの結果から、保護者が幼児の姿を通して教育活動に概ね満足していることが理解できる。重点目標の達成に向けた教育活動に関する⑤⑥⑦については、ほぼ 100%の肯定的評価であった。⑩の多様な活動についても、多くの保護者から充実していると受け止められていることが分かった。⑧の社会生活を送る上での基本的なルールについては、肯定的評価は 90%で、他の項目と比べると低く、D 評価（イイエ）も見られた。

教育活動全般については、概ね肯定的な評価を得ていることが分かった。保護者は日常的に登降園の折りに担任とコミュニケーションをとっている。さらに保育参観や教育相談、運動会などの行事によってどのような保育が行われてきているのかを見ている。それらの取組が、教育活動を肯定的に受け止める要因になっていると捉えた。

園開放デーについては、在園児だけでなく未就園児の参加も可能としている。令和元年度からは、名称を「にこにこDAY」とし、より多くの方から子育て支援活動について理解していただけるよう内容や期日を変更した。

ひろ～い園庭
たくさんの遊具
どろんこ大好き!

にこにこDAY

附属幼稚園では、「にこにこデー」として、在園児だけでなく、入園していないお子さんや未就園児の方を対象に園庭を開放しています。ブランコやジャングルジムなどの遊具で遊んだり、自転車やプランコに乗ったりして遊べます。また、どろんこになって遊べる砂場や土山もあります。園舎内の見学も可能です。この機会にぜひ附属幼稚園に遊びにきませんか？
たくさんの方のご参加をお待ちしております。
また、欠員募集も行っております。（3～5歳児：若干名）

にこにこデー開催予定日
（AM9:00～PM4:00）

5月17日（金）	9月13日（金）
6月14日（金）	9月27日（金）
6月21日（金）	10月4日（金）
7月5日（金）	10月11日（金）
7月12日（金）	10月18日（金）
7月19日（金）	1月24日（金）
8月24日（土）	1月31日（金）
9月6日（金）	

ホームページ、FACEBOOKでも公開しています

<https://kids.juen.ac.jp/>

<https://www.facebook.com/juenfuzokuyouchien/>

国立大学法人 上越教育大学 附属幼稚園
〒943-0815 新潟県上越市山屋敷町1番地
TEL 025-521-3697 FAX 025-521-3698
E-mail: youchien@juen.ac.jp

QRコード
アクセス

図1 保護者向けに配布したにこにこデーのチラシ

未就園児の保護者に対し、園の環境や保育の様子について、より広く周知できるよう取り組んだことで、令和元年度は前年度以上に参加者が増えた。また、定期的に未就園児の保護者向けの説明会を設けたことで、保育への理解を深めることにもつながった。さらに、フェイスブックによるWEB公開を行ったことで、「HPを見て参加した」と答える保護者が増え、子育て支援としての機会を広げることができたと捉えている。

「ふぞくフォーラム」は、平成30年度と令和元年度で年2回ずつ行った。講演会、ワークショップに加え、保護者同士のコミュニケーションの場として昼食親睦会も開催した。令和元年11月の講演会では、本学の藤井和子教授を講師に招き、「子育てはいつでも今がチャンス～どう受け止め、どう行動するか」と題して、子育ての実体験を踏まえながら幼児の発達をとらえ、親と子が一緒に育つ子育てのポイントについてお話をいただいた。また、ワークショップでは、上越市発達支援センターから講師を招き、「大好き♡大

好きスキンシップタイム」と題して「体を動かす」「親子のふれあい」を目的とした楽しいアクティビティを行い、多くの保護者から好評をいただくことができた。

(2) 預かり保育における活動の修正や見直し

平成30年度の預かり保育について、利用した保護者を対象にアンケート調査を行った。調査は本学の白神准教授に分析をお願いした。

	人数	割合
毎日	5	9.3%
週2～3回程度	2	3.7%
週1回程度	0	0.0%
月に1～3回程度	15	27.8%
これまでに1回のみ	6	11.1%
そのほか	2	3.7%
まだ一度も利用していない	24	44.4%
未回答	0	0.0%

表2 預かり保育の利用状況について (H30)

2018年4月～7月までに附属幼稚園の預かり保育を利用した頻度（お子様を預けた頻度）で最も多かった回答は、「まだ一度も利用していない」であった。利用したことがある回答者は全体で、30人であり、その中で最も多かった回答は「月に1～3回」であった。「そのほか」の具体的記述として、「これまでに10回以下」「これまでに2回」と書かれていた。

	人数	割合
1.満足していない	1	3.3%
2.あまり満足していない	0	0.0%
3.どちらともいえない	2	6.7%
4.やや満足している	1	3.3%
5.満足している	26	86.7%
未回答	0	0.0%
計	30	100%

表3 預かり保育への満足度について (H30)

これまでに預かり保育を利用したことがある保護者について、預かり保育への満足度を尋ねたところ、大多数が「満足している」という回答であった。

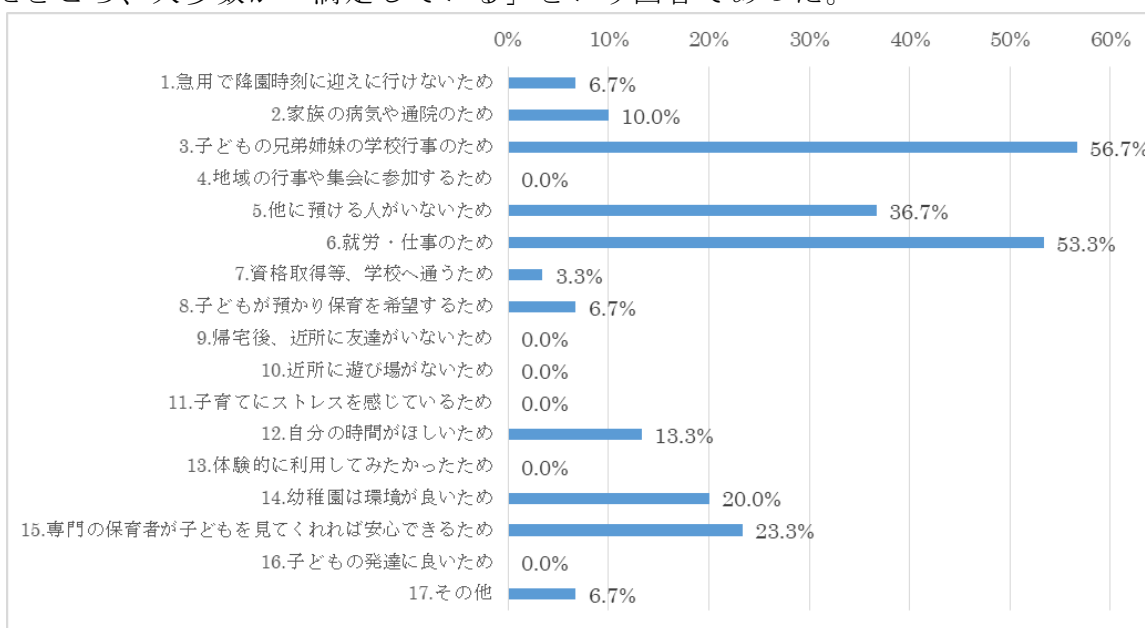


表4 預かり保育を利用した理由について (H30)

これまでに預かり保育を利用したことのある保護者について、預かり保育を利用した理由について複数回答により尋ねた結果、多く見られた回答は「子どもの兄弟姉妹の学校行事のため」「就労・仕事のため」「他に預ける人がいないため」であった。一方で、「帰宅後、近所に友達がないため」「近所に遊びがないため」「体験的に利用してみたかったため」という理由は見られなかった。

預かり保育の実施形態について、「実施時間帯」「活動内容」「利用料」「利用手続き」「情報共有」の観点で尋ねた結果、以下のような回答が得られた。

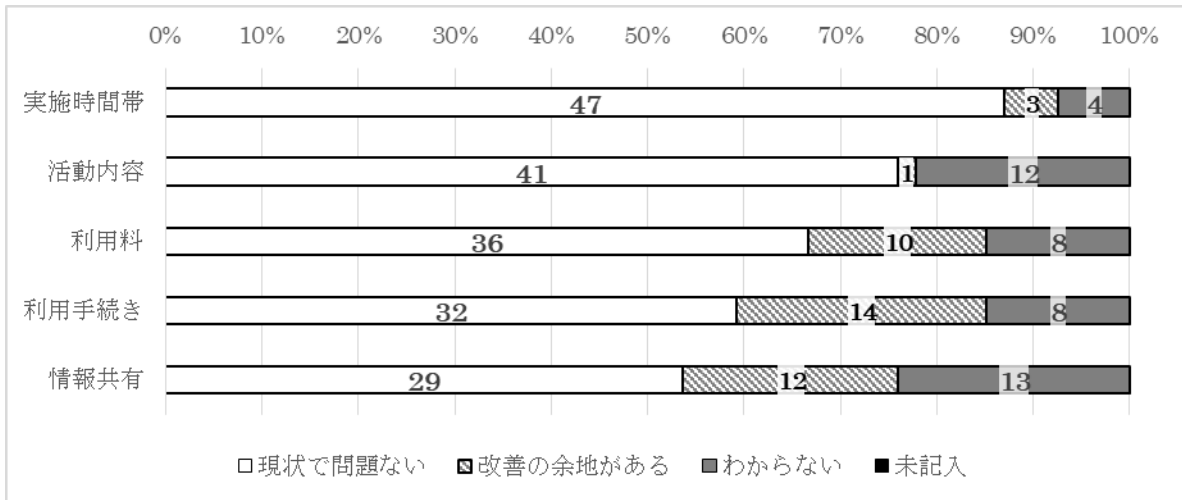


表5 預かり保育の実施形態について (H30)

おおむね「現状で問題ない」という意見がみられたが、「利用料」「利用手続き」「情報共有」について「改善の余地がある」とする意見が一定数あることが分かった。また、利用料については、料金の減額や利用形態に応じた柔軟な料金体系の要望が見られた。情報共有については、「クラス担任や保育支援員から子どもの様子をもっと伝えて欲しい」という要望がみられた一方で、「しっかりと子どもの様子を聞くことができ安心して」という記述がみられ、保護者がそれぞれに異なる感じ方や印象をもっていることが分かった。

附属幼稚園の「正規保育や行事」ならびに「預かり保育」のそれぞれについて特に期待している内容について調査したところ、表6のような結果が得られた。特に期待していることとしては、「情緒・感性の育成」が最も多く、次いで「自然との触れ合い」「自立心の育成」「自由な遊びの場の提供」が多かった。

「預かり保育」に特に期待していることとしては、「自由な遊びの場の提供」と「安全な生活環境の提供」が最も多

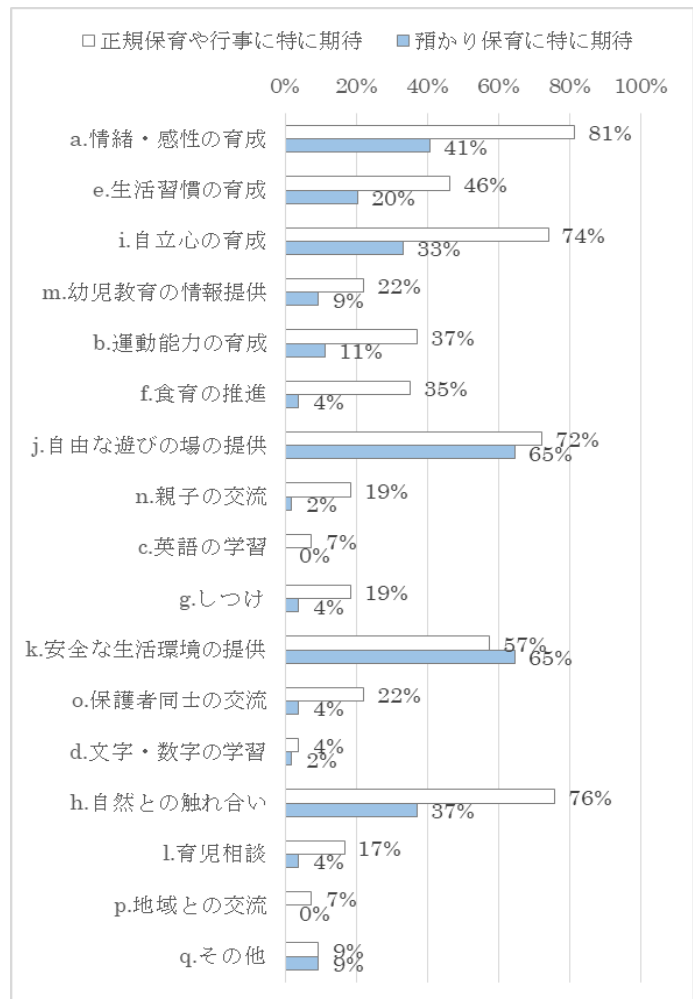


表6 附属幼稚園に期待していること (H30)

く、次いで「情緒・感性の育成」「自然との触れ合い」が多かった。

正規保育と預かり保育ともに「自由な遊びの場の提供」を期待している点は共通していた。「情緒・感性の育成」「自然との触れ合い」「自立心の育成」についても正規保育と預かり保育の両方に期待している結果が見られたが、預かり保育ではその割合は少ない傾向にあった。預かり保育については「安全な生活環境の提供」が正規保育よりも高い割合で期待されており、預かり保育に正規保育と同様の内容を求める考えが一定数あると同時に、預かり保育では安全性こそが優先されることを望むという考えも存在していることが示唆された。

そこで、これらの意見・要望をもとに、次年度の預かり保育の活動計画を見直し、内容は以下の通りである。

- ・ 預かり保育の申し込みを一律1日500円から、2時間未満300円、2時間以上500円に分けて申請できるようにした。
- ・ インターネット入力による利用申請を奨励し、パソコンやスマートフォンで24時間いつでも申請できるようにした。
- ・ 保護者とのやりとりを密にし、個々のニーズに対応できるようにした。
- ・ 午後開催の園開放デーを一日フリー参観形式の「にこにこDAY」に変え、預かりの時間を含めた保育全般を未就園児の保護者が体験、参観できるようにした。また、また、定期的に園の説明会を設定し、預かり保育について利用の仕方や保育の特徴、申請などについて理解を深める機会を設けた。

また、保育計画についても昨年度の実態を踏まえ、修正した。

預かり保育 4~7月 4.5歳クラス

		幼児は	保育者は
この時期の幼児は	発達の高橋 遊戯を喜び新しい環境に慣れる。	・慣れ親しんだ素材に関心をもち経験のある遊びを楽しむ。	・今までの経験を生かし新しい思いで活動ができるよう、製作ワゴンを棚に慣れ親しんだ素材を準備しておく。(セコハンテープ、ガムテープ、スズランテープ、クレヨン、サインペン、廃材など)
	仲間関係の様相 ・慣れた遊びを繰り返す遊び。 ・新しい仲間とのかかわりで遊びをみつける。 ・正規保育での緊張感や喜びで夕別に疲れを見せる幼児もいる。	・砂・土・水・草花などをつかった遊びや、虫や生き物捕まえなど、正規保育での遊びを繰り返す。 ・固定遊具を保育者と楽しむ。	・隣園後、幼児が正規保育でどのようなことを見たり、聞いたりまた遊んだりできたかを伝えたい気持ちにゆっくり耳を傾け、興味・関心を示し一緒に遊んでみる。
	仲間関係の様相 ・慣れた遊びを繰り返す遊び。 ・新しい仲間とのかかわりで遊びをみつける。 ・正規保育での緊張感や喜びで夕別に疲れを見せる幼児もいる。	・新しい保育者や友達に慣れ自分の思いを伝えることができる。 ・自然物、固定遊具など正規保育の活動を繰り返し行い、挑戦する喜びを味わう。 ・預かり保育での生活を安心して過ごす。また個々の幼稚園の生活リズムを知る。 ・預かり保育のルールを知り意識して過ごす。	・友達の遊びに興味を持ち近寄っていく幼児には、すぐに方法を伝えたり仲介したりせず、やり取りの方法を知り仲間意識が高められるようにする。 ・自分のやりたいことがうまく伝えられない場合は寄り添い、気持ちを受け止めて一緒に試してみる。 ・気持ちよく言葉にしてあげること、困っている時は友達や保育者が助けしてくれる安心感をもてるようにする。
これから保育者は	・保育者が幼児の思いを受け止め一緒に遊びながら安心して過ごせるよう援助する。 ・幼児がしたい遊びを見つけた時に、自分で考え準備できるように保育室の環境の充実に努める。 ・正規保育の担任や保護者と情報交換を「分行い、幼児の思いに寄り添い、遊びや生活リズムを支援していく。 ・家庭において保護者が「子」に接するのと同じように、その幼児に応じた配慮を心掛ける。	・大型積み木や、段ボールを使い友達がイメージできる物(バス、ステージと観客席、病院、お家など)を作り友達や保育者と繰り返し遊ぶ。 ・預かりの保育でのルールを知り、お互い気を付けて遊ぶ。	・幼児同士で遊びが準備されるよう見守り、必要な材料を準備しておく。(牛乳パックの仕切り、紙、段ボール、布など) ・イメージの共有や異年齢活動での困難があるときは、仲介役となり遊びが進展するよう見守る。 ・日々利用児が変化するため、一時利用児が既存の遊びに興味をもちた時は幼児同士で遊びの連絡が伝えられるよう援助する。 ・遊びに関連する絵本を読んだり図鑑をじっくり見たり、新たな気付きやイメージの共有ができるよう配慮する。 ・クラス栽培の草花・木の葉に興味をもちた幼児には、見つけたことを称賛し担任や友達との正規保育での活動に期待を持たせる。 ・道徳性、戸外など前からの遊びが継続しているスペースでは、保育者がどのような遊びなのか興味を話し幼児から教えてもらい、みんなの大切なもの」であることを意識できるようにする。 ・預かり保育でできるようになったこと、興味をもったことを、保護者、担任と情報交換し、幼児の理解を深めていくようにする。
14時(火・水・木)	14 15 16 17 18 あそび(おひらき) おやつ あそび おかえり 降園完了	・自分の身の回りのことを一人でやおうとする。 ・新入園児や途中入園の友達を心配し手伝おうとする。	・幼児の遊戯の喜びから見られる自分がかんばろうとする気持ちを認め励ましたりする。 ・新入園児に優しく接する姿を認め称賛し、幼児の自信につなげていくようにする。
12時(水)	12 15 16 17 18 あべんどう(おひらき) あそび おやつ あそび おかえり 降園完了	・おやつ、お弁当を友達と一緒に楽しく食べる。 ・味や匂いにも興味をもつ。 ・健康を意識し手洗い、うがいをする。 ・自分の健康に関心をもち、隣園時間に応じ休憩や午睡をとる。	・おやつは楽しい時間となるよう、季節に合ったもの、遊び、興味・関心のある絵本に出てきたものも取り入れる。また休憩時間、様々な味や食材に興味をもてるよう意図し、適したものを取り入れる。 ・気候の良い日はおやつやお弁当を戸外で食べるなど、少人数ならではの家庭的な雰囲気や活動に取り入れたいとする。 ・保護者、担任、養護教員と連携しアレルギー対応を行う。 ・お弁当、おやつに関する一連の流れを正規保育と合わすことができるよう各担任と連絡を取り合う。 ・正規保育での活動内容や様子を担当と日々連絡をとり合い、幼児の生活リズムや健康を維持できる配慮を行い、必要に応じ保護者と幼児に午睡を提案する。

表7 預かり保育計画 (一部抜粋)

令和元年度の取組を経て、平成30年度と同様のアンケート調査を行った。

	人数	割合（）	は平成30年度
毎日	12	24.5%	(9.3%)
週2～3回程度	1	2.0%	(3.7%)
週1回程度	1	2.0%	(0.0%)
月に1～3回程度	12	24.5%	(27.8%)
これまでに1回のみ	3	6.1%	(11.1%)
そのほか	3	6.1%	(3.7%)
まだ一度も利用していない	16	32.7%	(44.4%)
未回答	1	2.0%	(0.0%)

表8 預かり保育の利用状況について（R1）

預かり保育の利用は、「毎日利用する」と答えた割合が前年度より大幅に増え、24.5%となった。「一度も利用していない」と答えた割合も11.7%減少し、32.7%となった。このことから、保護者が預かり保育に対して一定の理解を得ていることがうかがえる。

	人数	割合（）	は平成30年度
1.満足していない	0	0.0%	(3.3%)
2.あまり満足していない	0	0.0%	(0.0%)
3.どちらともいえない	0	0.0%	(6.7%)
4.やや満足している	6	18.8%	(3.3%)
5.満足している	26	81.3%	(86.7%)
計	32	100%	(0.0%)

表9 預かり保育への満足度について（R1）

預かり保育の満足度については、全ての保護者が「満足している」「やや満足している」と答えた。活動の見直しによって保護者のニーズに合った預かり保育になったと推測できる。

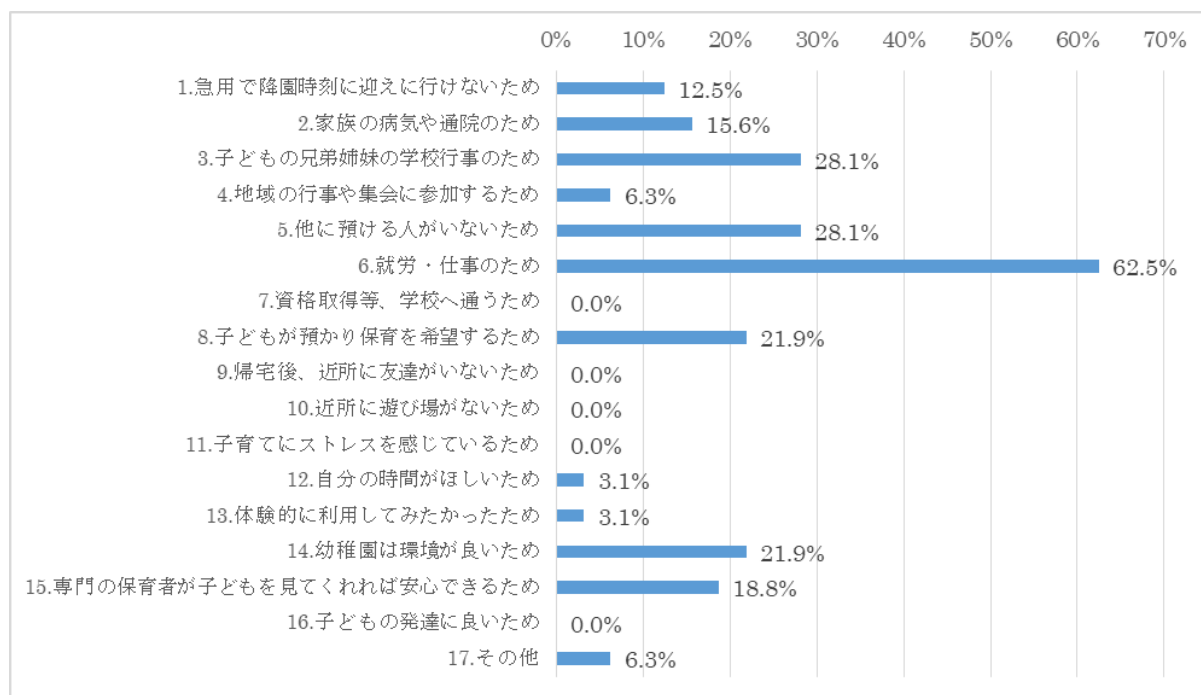


表10 預かり保育を利用した理由について（R1）

預かり保育を利用した理由について複数回答により尋ねた結果、最も多かった回答は「就労・仕事のため」であった。次いで「子どもの兄弟姉妹の学校行事のため」「他に預ける人がいないため」が多かった。一方で、「資格取得等、学校へ通うため」「帰宅後、

近所に友達がいないため」「近所に遊びがないため」「子育てにストレスを感じているため」「子どもの発達に良いため」という理由は見られなかった。

昨年度より「子どもの兄弟姉妹の学校行事のため」と答えた割合が大きく減少したことが特徴として挙げられる。また、「就労・仕事のため」と答えた割合が増加したことから、保護者が預かり保育の利用を「一時的」なものではなく、普段から安心して利用できるものとして捉えていることが考えられる。

預かり保育の実施形態について、「実施時間帯」「活動内容」「利用料」「利用手続き」「情報共有」の観点で尋ねた結果、以下のような回答が得られた。

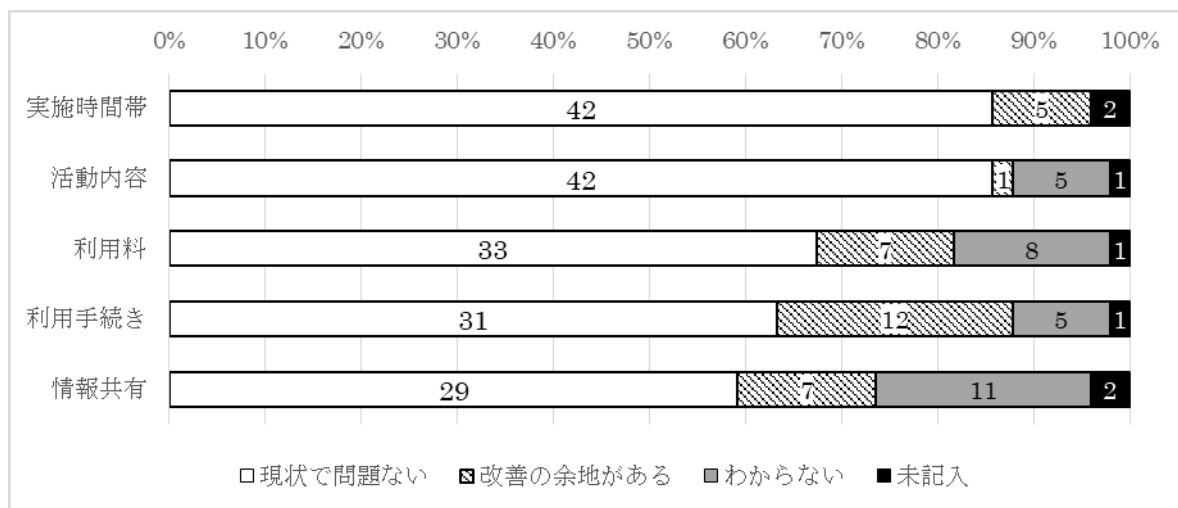


表 11 預かり保育の実施形態について (R1)

おおむね「現状で問題ない」という意見がみられたが、昨年度同様「利用料」「利用手続き」「情報共有」について「改善の余地がある」とする意見が一定数あった。利用料については、利用形態（通年利用と一時利用の別、夏休みの利用）に応じた柔軟な料金体系の要望がありました。実施時間帯については「改善の余地がある」とした回答は、他の項目に比べ多くはないものの、預かり保育の実施時間の延長に関する要望がいくつか寄せられた。預かり保育を利用する理由として、就労・仕事が中心になっている傾向が反映された結果と考える。

附属幼稚園の「正規保育や行事」ならびに「預かり保育」のそれぞれについて特に期待している内容について調査したところ、表 12 のような結果が得られた。

「正規保育や行事」に特に期待していることとしては、昨年同様「自然との触れ合い」が最も多く、次いで「情緒・感性の育成」「自立心の育成」「自由な遊びの場の提供」が多かった。「預かり保育」に特に期待していることについても、「自由な遊びの場の提供」が最も多く、次いで「安全な生活環境の

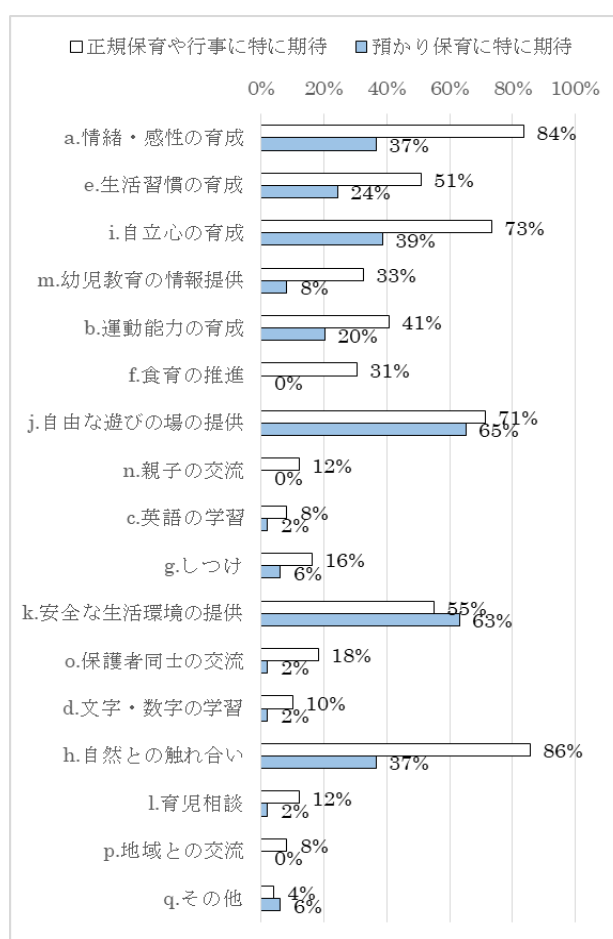


表 12 附属幼稚園に期待していること (R1)

提供」「情緒・感性の育成」「自然との触れ合い」が多いなど昨年度とほぼ同様の結果が得られた。

正規保育と預かり保育ともに「自由な遊びの場の提供」を期待している点は共通していた。「情緒・感性の育成」「自然との触れ合い」「自立心の育成」についても正規保育と預かり保育の両方に期待している結果が見られたが、預かり保育ではその割合は少ない傾向にあった。預かり保育については「安全な生活環境の提供」が正規保育よりも高い割合で期待されており、預かり保育に正規保育と同様の内容を求める考えが一定数あると同時に預かり保育では、安全性こそが優先されることを望むという考えも存在していることが示唆された。幼児の正規保育時間の疲労が残る降園後の預かり保育については、昨年同様安全に細心の注意を払って保育にあたるのが、必要であると感じた。

5 研究成果の発表状況

保護者アンケートの結果は、PTA 総会等で保護者に報告した。また、幼児の遊びの様子から、正規保育と預かり保育の関連性、保育者同士の情報交換の重要性が示唆される事例が集積された。それらの事例は、本園主催の幼児教育研究会（平成 30 年 10 月 10 日、令和元年度 10 月 9 日開催）や、平成 30 年度研究紀要「遊び込む子ども—教育課程の創造—」で報告した。

6 学校現場や授業への研究成果の還元について

新潟県教育委員会主催の保幼小合同研修会、県立教育センター主催の幼稚園等新規採用教員研修、本学の学習場面臨床学の実地指導等において、本園の取組を伝えた。また、全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会や新潟県教育委員会主催の幼稚園等新規採用教員研修等、幼児保育に関わる研修会などで成果を話題に挙げ、預かり保育も含めた子育て支援活動を行う方々と情報を共有した。